

【 76 】

氏名	染 田 邦 幸 そめ だ くに ゆき
学位の種類	医 学 博 士
学位記番号	医 博 第 172 号
学位授与の日付	昭 和 40 年 3 月 23 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 5 条 第 1 項 該 当
研究科・専攻	医 学 研 究 科 外 科 系 専 攻
学位論文題目	髄液蛋白の寒天電気泳動的ならびに免疫電気泳動的研究
論文調査委員	(主 査) 教 授 荒 木 千 里 教 授 木 村 忠 司 教 授 伊 藤 鉄 夫

論 文 内 容 の 要 旨

寒天電気泳動法および免疫電気泳動法を用い、正常および病的状態、主として脳神経外科的症例における髄液蛋白の分析を行ない、髄液蛋白泳動図および沈降線像について特徴的变化が出現するか否かを観察し、両者の診断的意義を検討した。

正常髄液蛋白の泳動図の特徴は、前分層の存在、比較的平坦な α_2 -、著明な β_1 -と τ - 分画、三つの従属分画に分れる平低な γ -分画である。免疫電気泳動法では、リポ蛋白のうち、 ρ_2 、 α_1 -L、 α_2 -L が常在し、 β_1 -L は決して認めることができない。 α_2 -マクログロブリンは特異的抗血清により全例に証明された。 β_2 -マクログロブリンは正常例には決して出現しない。

疫患時の髄液蛋白については、脳腫瘍例では、その泳動図が高率に血清型を示すようになる。また著しく血清型を示した症例では免疫電気泳動法によっても、血清に酷似した沈降線像を呈する。そしてこのことは血清蛋白が異常に髄液中に移行するためにおこる変化であることを裏づけるものと考えられる。

泳動図の血清化が著しくない例でも β_1 -L は高率に出現することから β_1 -L の病的意義は疑いのない事実である。

そのほか、癲癇、頭部外傷後遺症、不随意運動性疾患等の症例には、著しい変化は認められなかった。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

寒天電気泳動法および免疫電気泳動法をもちい、正常および病的状態（主として脳神経外科的症例）における髄液蛋白泳動図および沈降線像について特徴的な変化がみられるかいなかを観察し、その診断的意義を検討した。

脳腫瘍の例では、その寒天電気泳動図が高率に血清型を示すようになる。また著しく血清型を示した症例では、免疫電気泳動法においても血清に酷似した沈降線像をていする。そしてこれらのことは脳腫瘍では血清蛋白が異常に髄液中に移行するための変化であることを示すものである。

寒天電気泳動図の血清化が著しくない例でも、免疫電気泳動図では β_1 -L が高率に出現する。これは正常ではけっして見られないことである。

以上のような変化は、癲かん、頭部外傷後遺症、錘体外路性疾患では認められなかった。

本論文は学術上有益にして医学博士の学位論文として価値あるものと認定する。